



札幌市文化遺産活用による文化振興及び観光振興事業

(平成23年7月～平成26年3月)

1 計画の概要・実施体制

札幌の子どもたちや地域の方々が札幌の文化として気軽に触れ合える、伝統文化のまち「さっぽろ」を創りあげていくため、次世代への継承と新たな創造という観点で、地域の伝統文化を柱に事業を展開していく『伝統文化のまち「さっぽろ」活性化事業』を実施します。

また、札幌市における文化遺産を総合的に把握し、その成果を次世代に伝えていくため、観光・地域まちづくりへ活用する取り組みである『さっぽろまち歩き「ポケットコンシェルジュ」展開事業』を実施します。

本計画の実施にあたっては、各事業の補助事業者が主体となり、札幌市は計画全体の調整等を行います。

2 補助事業名

- ① 伝統文化のまち「さっぽろ」活性化事業
- ② さっぽろまち歩き「ポケットコンシェルジュ」展開事業

3 補助事業者名

- ① 札幌市伝統文化活性化事業運営協議会
- ② さっぽろまち歩き事業検討実行委員会

4 計画に基づく補助事業の目的・内容

① 伝統文化のまち「さっぽろ」活性化事業

札幌市無形文化財の第1号に指定された丘珠獅子舞は、110年以上の歴史を持っています。しかしながら、札幌市の歴史は浅く、その他の伝統文化に触れる機会が極端に少ないのが現状です。長い年月をかけて親から子へ、地域の大人から子どもたちへ、地域がひとつになって文化を守り継承していくことは、現在の社会では非常に重要であるため、次世代への伝統文化の継承と新たな伝統文化の創造を目指し、伝統文化のまち「さっぽろ」を創りあげていきたいと願っています。

事業内容については以下のとおりです。

1 地域の文化遺産普及啓発事業

(1) 人形浄瑠璃公演事業

① さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座&ユースクラス道内公演

『第37回函館人形劇フェスティバル』に上演参加

- ・日程：平成23年10月29日(土)
- ・場所：函館市民会館
- ・参加人数：18名
(あしり座10名、ユースクラス8名)
- ・入場者数：381名

② 人形浄瑠璃公演『座・競演Vol. 2～古謝美佐子+木偶童座&八王子車人形西川古柳座&あしり座』

- ・日程：平成23年12月24日(土)、25日(日)
- ・場所：札幌市こどもの劇場やまびこ座
- ・出演者数：29名
(あしり座18名、西川古柳座2名、木偶童座9名)
- ・観客数：221名 (24日：71名、25日：150名)

① 伝統文化のまち「さっぽろ」活性化事業



人形浄瑠璃公演『座・競演Vol. 2～古謝美佐子+木偶童座&八王子車人形西川古柳座&あしり座』
道外一座とあしり座の共演。
写真は、「吉屋チル 物語」(古謝美佐子+木偶童座)
古謝美佐子さんと人形のコラボレーション。

(2) 篠路子ども歌舞伎公演事業

- ・日程：平成23年10月2日(日)
- ・場所：篠路コミュニティセンターホール
- ・演目：「勸進帳」
- ・参加園児：20名
- ・入場者数：420名



篠路子ども歌舞伎公演事業
毎年、実施される篠路子ども歌舞伎の公演。
演目は「勸進帳」。20名の子どもたちが熟演。

2 地域の文化遺産継承事業

(1) 人材育成事業

① 人形浄瑠璃人材育成事業

子どもたちの伝統文化体験事業、長期的な子どもや一般を対象とした講習会の実施。人形浄瑠璃の人材育成と受け皿づくりの構築を目指す。

実施期間：平成23年7月12日～平成24年2月25日

- ・人形浄瑠璃講習会&ユースクラス
- ・義太夫講習会
- ・あしり座技術向上ワークショップ
- ・こども舞台体験プログラム

(三人遣い体験、義太夫・三味線体験、
舞台裏方体験)



人形浄瑠璃講習会
三人遣いという特殊な操作方法を学ぶ人形浄瑠璃講習会。



ざ・にんぎょうじょうりゆうクラス
中高生対象の人形浄瑠璃講習会。23名の子どもたちが
発表を目標に活動。



義太夫講習会
道内初となる義太夫講習会。語りと三味線を学ぶ講習会。

②こども伝統文化体験事業

次代を担う子どもたちに伝統文化を体験させ、
日本固有の文化を習得し、継承することを目的と
して子ども教室を開催する。

(2) 用具整備事業

伝統芸能における継承のために用いる用具の修理
及び新調を行う。

実施期間：平成23年10月1日～平成24年3月31日

- ・人形浄瑠璃大道具修理
- ・篠路子ども歌舞伎衣裳修繕
- ・丘珠獅子舞道具新調

3 地域の文化遺産記録作成、調査研究

(1) 丘珠獅子舞教材制作

後継者育成、正確な技術伝承のための教材として、
丘珠獅子舞記録映像教材（DVD）を制作。昨年9
月の丘珠神社秋季例大祭奉納行事の映像を基に、獅

子の舞のポイントをわかりやすく映像化。また、現
在数少ない頭振りの技術を記録映像として残し、後
継者育成の教材として使用。同様に囃子についても、
笛の音色、リズム、太鼓の叩き方等を映像化しまし
た。

② さっぽろまち歩き「ポケットコンシェルジュ」展開
事業

札幌には、アイヌの文化をはじめ、古くからの歴史や
文化を伝えるたくさんの文化財、四季折々の豊かな自然
など、いたるところに「資源」が点在します。

これらの「資源」を現地でありのままに展示・保存さ
れている資料と考えると、札幌のまちはまるで屋根のな
い広い博物館＝「まちあるき博物館」と捉えることがで
きます。「札幌まちあるき博物館」は、札幌に住む人々
が札幌の魅力を再発見するとともに、かけがえのない「札
幌の資源」を守り育てながら、誇りをもって次世代に伝
えていこうとする新しいまちづくりの取り組みです。

まずは、市民が知り、楽しみ、親しむことから。それ
が、札幌を訪れる観光客への最高のおもてなしにつな
がるのではと考えます。

事業内容としては札幌の文化遺産の調査に基づいて観
光コンテンツをつくり、市民や観光客が参加する実証実
験を行っています。また、得られる各種データをもとに
“文化遺産の価値に触れる機会の創出”、“短時間で楽し
めるまちあるきの提供”、“市民活動の促進”などの指標
で効果を計り、今後の効果的な観光振興・地域活性の方
策について検討を行うものです。

- (1) 札幌市の抱えている課題の整理
- (2) 事業の展開方法の検討
- (3) 対象地域内に点在する文化遺産などを中心とした地
域資源の把握
- (4) 文化遺産を中心とした地域資源の編集・発信方法の
確定
- (5) トレイル（まち歩きルート）の設定・実証実験（写
真ワークショップ）の実施
- (6) 事業効果の検証
- (7) 札幌まちあるき事業検討実行委員会の開催
- (8) 札幌まちあるき博物館の課題と展望の整理



事務局による資源調査の様子



実証実験（北大エリア）の様子

5 計画の実施の効果

① 伝統文化のまち「さっぽろ」活性化事業

1 さっぽろ人形浄瑠璃

(1) 人形浄瑠璃公演事業

北海道において、人形浄瑠璃というジャンルはなじみが少なく、観劇する機会も少ないため、道内各地域での公演は伝統文化普及のためにも大変有効です。公演による効果は、札幌の伝統文化のPRの場と同時に後継者や支援者が増えていくことで活性化にもつながっていきます。座員とユースクラスのメンバーにとっても、普段とは違った場所、雰囲気、観客者の違いなどにより多くの刺激を受けました。自分たちの足元を見つめ直す意味でも大変貴重な機会となりました。

人形浄瑠璃公演「座・競演Vol. 2」では、滅多に観ることができない道外の一団との共演を220名程の方々に観ていただくことができました。初めて人形浄瑠璃を観る方々も多く、観劇後のアンケートでは驚きの声と同時にこれからを期待する声も数多く聞くことができました。札幌の伝統文化として歴史が浅い分、今後の期待も大きいと感じています。今回の競演は、人形浄瑠璃の新たな可能性を指し示す場となり、新たな応援者の獲得、座員にとっても大いに刺激になりました。

(2) 人形浄瑠璃人材育成事業

人形浄瑠璃講習会、ざ・にんぎょうじょうりユースクラス、義太夫講習会（一般クラス、中高生クラス）、舞台体験プログラムという多彩な事業を実施することができました。子どもから大人まであらゆる世代を対象とした事業展開は、後継者育成という点で確実につながりあるものとなりました。

人形浄瑠璃講習会は11名、ユースクラスは23名、また道内初となる義太夫講習会は18名の受講者が参加しました。講師の方々の丁寧な指導により、次年度以降の継続の意思も示されており、将来の札幌の伝統文化の担い手が少しずつ育っていることに大いに期待しております。

こども舞台体験プログラムでは、継続参加する子どもたちも数多くおり、慣れないながらも楽しみな

がら人形を遣ったり、義太夫を語る姿がとても印象的でありました。普段では味わえない経験をすることができ、達成感いっぱいの子もたちの笑顔が印象的でした。すでにユースクラスに入りたいという子ども数名おり、伝統文化への入口としては一定の成果を取めたと感じています。



こども舞台体験プログラム『ふれアート』
(人遣い体験)

小学校4年生から高校生までを対象とした体験プログラム。三人遣いを学ぶ。



こども舞台体験プログラム『ふれアート』
(義太夫・味線体験、舞台裏方体験)

小学校4年生から高校生までを対象とした体験プログラム。義太夫、三味線、舞台裏方を体験。最後には、人形と合わせミニ発表会を実施した。

2 篠路子ども歌舞伎公演

札幌市の篠路太平地区に伝わっていた農村歌舞伎を後世に伝え、伝承していくために篠路中央保育園の年長組の子どもたちが歌舞伎を行っていることは、全国的に見ても珍しく、ユニークな取り組みとして注目されています。

今回の公演は、時期的な問題で例年よりは少なかったものの420名の方々が観劇に訪れ、子どもたちの熱演に大きな拍手が送られていました。篠路地区に伝わる伝統芸能を子どもたちの手で継承され、守られていることに大変大きな意味があります。それを応援し支えていこうとする地域の大人たちの努力に、地域のつながり、そして芸能の力強さを感じることができました。

地域文化の誇りとして、篠路子ども歌舞伎を受け継いでいくことの意味を改めて感じたところでもあります。

3 丘珠獅子舞教材制作

世代交代が進む中で、必ず生じてくる問題として後継者の育成や正確な技術の伝承ということが挙げられます。丘珠獅子舞という110年以上もの歴史を持つ文化財の正確な保存伝承のために役立てていこうと、丘

珠獅子舞記録映像教材（DVD）を制作しました。

丘珠獅子舞の演目の紹介と合わせ、現在数少ない頭振りの技術、また囃子方についても、笛の音色、リズム、太鼓の叩き方などを記録映像として残し、後継者育成の教材として使用します。

② さっぽろまち歩き「ポケットコンシェルジュ」展開事業

平成23年度は、主に「読本」制作に力を入れました。この読本制作は、観光客のための新たなコースとなるだけでなく、市民に対して語る歴史や文化があるという意識改革、地域まちづくりへの参画のきっかけとなりました。また、既存のコミュニティにとっても、互いに接点を持つきっかけとなりました。具体的な活動としては、まず文献調査を行った上で、現地踏査を実施。現地踏査では、資源の発見、写真撮影を行うだけでなく、地域住民や地域の核となっているまちづくり団体へのヒアリングや関係者を集めたミーティングも行いました。これらを踏まえ、ストーリーを元にしたトレイル・資源を整理し、分かり易く説明を行うための冊子（読本）を制作し、最終的には読本の効果を図る実証実験を実施しました。本活動では、これまでの札幌のステレオタイプ化された資源だけでなく、ストーリーを説明する為に必要な資源・視点が採り上げられています。こうした抽出方法により資源発掘し、作成された読本は、既存パンフレットとは異なるものです。一方で、こうした手法は、これまで目のみを見ることのなかった地域資源の保護にも役立つと考えています。



実証実験（苗穂エリア）の様子



実証実験（中島公園エリア）の様子



実証実験（円山公園エリア）の様子

6 今後の予定

① 伝統文化のまち「さっぽろ」活性化事業

24年度、25年度についても、引き続き札幌の伝統文化の普及啓発事業（人形浄瑠璃公演、篠路子ども歌舞伎公演）、人形浄瑠璃人材育成事業を中心とした事業展開を行います。また、それに伴う用具整備、教材制作等も行っていき、地域での普及活動に活用していく予定です。

② さっぽろまち歩き「ポケットコンシェルジュ」展開事業

24年度の事業計画、今後のスケジュールは、次のとおりです。

(1) 情報発信事業

- ①平成23年度モデル4地域の読本強化
- ②モデル地域の拡大検証

(2) 人材育成事業

- ①まち案内人・PORT拠点での役割検証
 - ・ストーリー・トレイル・資源などの再検証
 - ・ポロクル・タクシーなどと連携した誘客の検証
 - ・市民を対象にした「しゃしんワークショップ」の開催
 - ・札幌オオドオリ大学と連携したモニター検証
- ②運営組織の検証及び設立
 - ・運営組織の検証及び設立
 - ・受入事業の検証

○今後のスケジュール

- ・平成24年4～9月
実証実験を実施するためのインタビュー・写真収集ワークショップを開催。
インタビュー・写真ワークショップを経て、実証実験に向けて読本を再構築。
- ・平成24年10～12月
実証実験・写真展を実施。
- ・平成25年1～3月
運営組織の検証を実施。
- ・平成25年4月～平成26年3月
事業内容・体制を確立。